広報担当おすすめスポット

“わたしのまち” 荒川区

〝城北の名園〟から子どものオアシスへ

～笑顔いっぱい家族で安心して楽しめる遊園地、あらかわ遊園～

今年で開園65周年を迎えた都内唯一の区立遊園地、あらかわ遊園。
誰もが安全で安心して楽しく利用できる場所として、
小さな子どものいるファミリー層を中心に区内外から多くの人が訪れ、愛されてきました。
そんなあらかわ遊園の歴史と魅力を探ります。

あらかわ遊園のシンボル、隅田川を見下ろす観覧車からは、晴れた日には東京スカイツリーや遠く富士山も望むことができる

安心して楽しく利用できる遊園地

〝名園〟と謳われた一大行楽地

小さな子どものいるファミリー層を中心に、区内外からも多くの人が訪れる「あらかわ遊園」。都心にあるという立地条件やレトロな趣の遊園地ということで、テレビドラマやCM、情報番組、雑誌など、年間数十件もの媒体に登場しています。

今年8月に開園65周年を迎えたあらかわ遊園は、昭和25年に都内初の区立遊園地として誕生しました。

大正時代の初頭、現在のあらかわ遊園の地にはレンガ工場がありました。その後、出火によりレンガ工場の施設が焼失してしまったため、大正11年、工場の敷地に民営の遊園として創設されました。

当時のあらかわ遊園は、子どもから大人までが楽しめる行楽地・避暑地として「城北の名園」と謳われるほどでした。

中央の観月橋ぎわには竜宮館が、北側の川岸沿いには本家茶屋の檜御殿があり、建築美を誇っていました。

また、園内にくまなく張り巡らされた掘割と水上建築は、大滝の清流とともに納涼客でにぎわいました。

そのほかにも、大浴場や映画館、水上自転車や飛行塔など、子ども向けの乗り物や運動器具も完備し、動物園では猿、熊、鶴、孔雀などが飼育されて

マスコットキャラクター、ミーアキャットの「ユウくん」と「ミミちゃん」。名前は、平成３年に252件の応募の中から選ばれた

いました。

当時、銭湯に入るのに5銭かかっていた時代、あらかわ遊園の入園料は大人30銭でした。

都内初の区立遊園地が誕生

しかし昭和に入り、かつて一大行楽地としてにぎわいを見せていたあらかわ遊園も、昭和初期の不景気による経営難や戦争により閉園することになり、同時に所有も移り変わり、終戦後もしばらくは放置されていました。

そのような中、荒川区では「児童のための健全な社会環境の育成」を目標とした遊園の再建運動が展開され、それを受けて昭和24年に工事を開始、翌年8月、都内初の区立遊園として開園するに至りました。

当時の敷地面積は7228坪、東西に最長250m、南北では146mの長方形の園内に、飛行塔・豆汽車・豆自動車・木馬などの遊戯施設やローラースケート・プールなどの体育施設のほか、小動物園・花園・薬草園・売店などもあり、一大楽天地としてにぎわいました。昭和28年度の入園者は、36万人以上にも上ったそうです。

その後、大温室、弓道場が新設され、昭和61年には開園から30年以上が過ぎ老朽化も見られたため、全面改造工事が開始されました。

釣り堀や「どうぶつ広場」「のりもの広場」などが造成され、平成2年4月には園のシンボルでもある観覧車や「スカイサイクル」「メリーゴーランド」などが新設、クラフトハウス（現在の「ふれあいハウス」）や「水あそび広場」「アリスの広場」などが完成し、新生あらかわ遊園がオープンしました。オープニングイベントでは、水上ステージで薪能が演じられ、来場者は3万人と盛大なものになりました。

さらに「スポーツハウス」や地下駐車場が整備され、平成11年には入園者が延べ2000万人を超えました。

平成16年には「コーヒーカップ」、そして翌平成17年には〝日本一遅い〟と人気の「ファミリーコースター」をリニューアルし、以降現在に至るまで多くの家族連れに親しまれています。

平成22年10月には、昭和25年に区の運営となってから60周年を迎えたことを記念し、感謝まつりが開催されました。水上バスクルーズや昔ながらの街頭紙芝居、大道芸や地元町会の人々による獅子舞など、地域住民も大勢参加しにぎわいました。

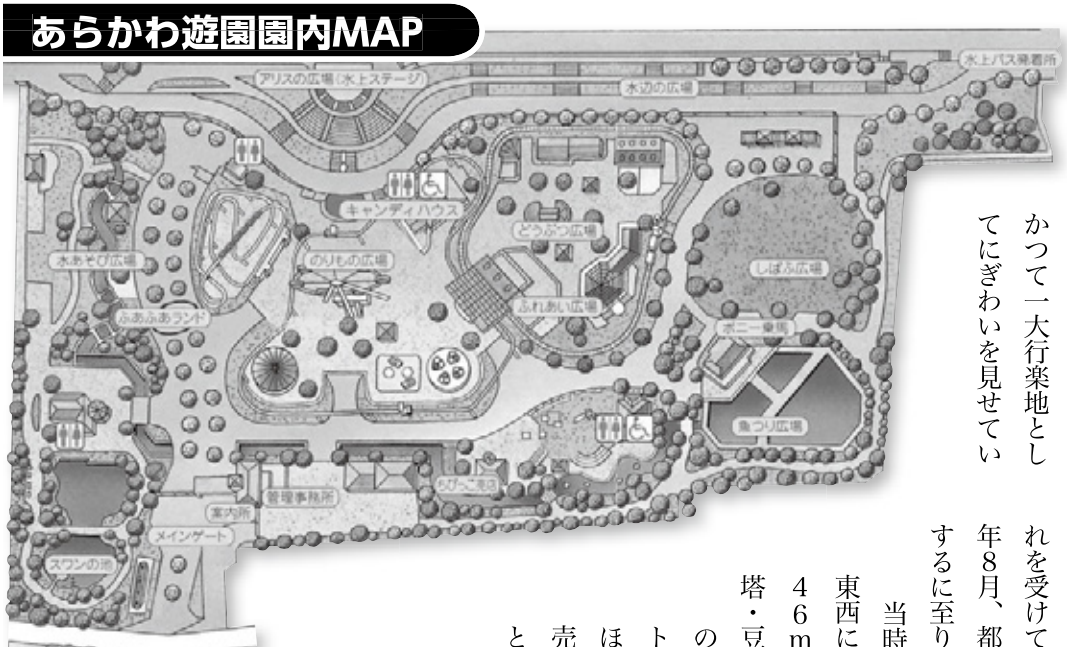
安心・安全な楽しく遊べる遊園地

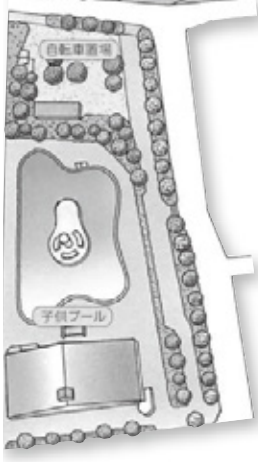
平成23年には、都電模型や昔懐かしい都電関連の品々を常設展示する「下町都電ミニ資料館」がオープンしました。鉄道模型運転場は、小学生以下の児童を対象に無料でNゲージの運転ができるため、子どもたちに大人気です。

また、この資料館は鉄道マニアの大人にも評判で、遠方からこの資料館のために来園する人もいるそうです。

それ以外にもあらかわ遊園ではポニーに乗ったり、ウサギやヒツジなどと触れ合えるほか、昨年から今年にかけてはミーアキャット、ヤギ、カピパラ

あらかわ遊園園内MAP





“日本一遅い”のが売りの（？）いも虫型のジェットコースター。3歳児から乗車可能なので、小さな子どもを連れたファミリー層に人気。1周約138メートルのコースを2周する

の赤ちゃんが次々と誕生し、お披露目されました。園内では、こうした動物たちの愛くるしい姿を観察することができます。

このようにあらかわ遊園は、小さな子どもでも楽しめる乗り物や動物たちと触れ合える広場など、家族連れが安心して楽しめるアットホームな遊園地としてこれまで多くの人々から愛されてきました。

小さな子どものいるファミリー層からは、「(他の遊園地だと年齢や身長制限等で条件に満たないケースが多いため)乗れる乗り物がたくさんあってよかった」「乗り物だけでなく、動物と触れ合えたり、エサをあげられたりできたのがよかった」という意見が多く上がっています。

また、入園料が大人200円・小中学生100円(春・夏・冬休みを除く平日は小中学生のみ無料)と安いため、気軽に訪れることができる点も人気の高さだといえます。

あらかわ遊園は歴史があるところなので、小さい頃に連れてきてもらった遊園地に今度は自分が子どもを連れて来るといった、親子三代で昔を懐かしみながら来園する家族も多いようです。

荒川区では、あらかわ遊園を区が誇る貴重な観光資源のひとつとして捉え、区内外の人が今後も安心して楽しく利用できる施設として、さらに維持管理や施設の充実を図っていこうとしています。

あらかわ遊園ニュース

街頭紙芝居がやって来る!

戦前に生まれた街頭紙芝居は、テレビのない時代、子どもたちの娯楽として人気でした。路地や公園で、子どもたちは目を輝かせて紙芝居に夢中になっていました。あらかわ遊園では、そんな街頭紙芝居を毎月第2土曜日の午後に見ることができます。

紙芝居を見た子どもたちからは、「楽しかった」「また見たい」といった感想が多く聞かれます。また、年配の方では、「昔見た『黄金バット』を今見ることができて懐かしかった」と当時を懐かしく思い出している方が多くいます。

あらかわ遊園ニュース

かわいい赤ちゃんが続々と生まれています!

昨年7月に遊園のマスコットキャラクターにもなっているミーアキャットの赤ちゃんが、そして今年5月にはカピパラの赤ちゃんが誕生しました。遊園にはこのほかにも動物たちがいっぱいいます。ウサギやヒツジにさわったり、ポニーに乗ったり、愛らしい動物たちに癒されます。

カピパラ

ミーアキャット

広報担当 おすすめスポット

1 魚つり広場

4歳以上の子どもから利用できる釣り堀と、16歳以上から利用できるへら鮒池の2つがあり、へら鮒池は特に大人が楽しめる都会の釣り堀で、のんびりと休日を過ごすのに最適な場所です。子どもを連れてきたお父さんもしっかり楽しめます。

2 都電一球さん号

入口付近のいこいの広場には、都電荒川線6000形車両最後の1台である6152号車が展示されています。車体のヘッドランプが丸く、一つであることから「一球さん」とも呼ばれた貴重な車両です。

3 昔ながらの面影

入園口やふれあいハウス、スワンの池に架かる橋などのレンガを基調とした建築物や、園路沿いの掘割などは、“城北の名園”と謳われた大正時代の面影をイメージしたつくりになっています。レトロな昔の面影を見つけてみてはいかがでしょうか。

平成29年春開設予定

複合施設「ゆいの森あらかわ」

区では、図書館・吉村昭記念文学館・子ども施設が一体となった「ゆいの森あらかわ」を平成29年春に開設する予定です。

赤ちゃんから高齢者まですべての世代の人が利用できる施設で、老朽化が進んだ荒川図書館の建替えに伴う場として約60万冊の蔵書を備えた図書館、荒川区出身で「戦艦武蔵」「関東大震災」「ポーツマスの旗」などで著名な作家・吉村昭氏を記念する文学館、理科実験やワークショップなどを体験できる子ども施設が融合したこれまでにない新しいタイプの複合施設です。

施設は、図書館・文学館・子ども施設を区切らず一体的に運用し、例えば、子どもたちが施設内で遊び感覚で体験したことから興味を持ち、そのまま本で調べることができるのもこの施設ならではです。

また、施設内には、さまざまな用途で利用できる席として約800席の座席を整備する予定です。利用者は、木蔭の読書席や大きな資料を広げられるテーブル席、書架の傍らのスツール席、間仕切りの付いた個別席、グループ学習席、親子の飲食スペースなどで自由に時間を過ごすことができます。

「ゆいの森あらかわ」完成イメージ